

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653075

研究課題名(和文)ダイバーシティと社会的排除に関する比較公共政策研究

研究課題名(英文)Studies of comparative public policy research on diversity and social exclusion

研究代表者

山内 直人(Yamauchi, Naoto)

大阪大学・国際公共政策研究科・教授

研究者番号：90243146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：社会のダイバーシティ(多様性)が、ソーシャル・エクスクルージョン(社会的排除)をもたらすメカニズムを解明するとともに、ダイバーシティをポジティブに評価・活用して、社会の活力維持につなげるための公共政策のあり方について研究を進めた。各国社会のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの状況と、各国の経済成長、起業、犯罪など、様々な社会経済パフォーマンスとの関係を定量的に分析した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to investigate the mechanisms of social exclusion caused by diversity, and hopes to contribute to influence the value and the use of diversity in public policy positively, in order to preserve the vitality of society.

For this purpose, we quantitatively analyzed the situation of diversity and social exclusion in different societies in relation to economic growth, the promotion of enterprise, crime rates, and other socio-economic performance indicators.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済政策 ソーシャル・エクスクルージョン NPO/NGO 市民社会アクター 社会経済パフォーマンス  
ダイバーシティ

## 1. 研究開始当初の背景

近年、少子・高齢化、規制緩和、グローバル化などを背景に、日本社会においても、ジェンダー、ワークスタイル、国籍など、様々な観点からみたダイバーシティ（多様性）が急速に高まっている。従来は、日本社会の特質の一つとされた同質性が、経済発展にもプラスに作用してきたと考えられてきたため、社会のダイバーシティの増大は、経済社会の安定と発展にとってマイナスの効果を持つと考えられることが多かった。実際、ネガティブな側面として、自殺、引きこもり、虐待、いじめ、犯罪、NEET、所得・資産格差などが喧伝されている。これらは、ソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）がもたらす社会病理の諸症状と考えられ、現代市民社会が取り組むべき喫緊の課題となっている。

## 2. 研究の目的

社会のダイバーシティ（多様性）が、ソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）をもたらすメカニズムを解明するとともに、ダイバーシティをポジティブに評価・活用して、社会の活力維持につなげるための公共政策のあり方について、国際比較の視点を重視しつつ研究する。

国際的な市民社会セクターの発展経緯や機能に関する研究と密接に関連させて、ダイバーシティ及びソーシャル・エクスクルージョンについて調査・分析し、アジアや東欧、南米等の諸国も対象として含む幅広い国際比較研究が可能な定量的指標体系を開発する。研究対象に幅広い国・地域を取り入れることで、個別・地域別の相違やそのなかでの日本の特徴を浮き彫りにすることが可能になると考える。

## 3. 研究の方法

3年間の研究期間を想定し、世界の主要地域のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンについての文献調査、現地調査を行い、データベースを構築するとともに、調査対象国・地域の市民社会の特徴を表す「ダイバーシティ・インデックス (DI)」および「ソーシャル・エクスクルージョン・インデックス (SEI)」（仮称）を開発するため、各国社会のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの数量的な表現を試みた。これらのインデックスを構成する各要素の相互関係および類型化について、多変量解析の手法を用いて検討を行なった。さらに、各国社会のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの状況と、各国の経済成長、起業、犯罪など、様々な社会経済パフォーマンスとの関係を、定量的に分析した。

## 4. 研究成果

社会のダイバーシティ（多様性）が、ソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）をもたらすメカニズムを解明するとともに、

ダイバーシティをポジティブに評価・活用して、社会の活力維持につなげるための公共政策のあり方について研究を進めた。調査対象国における市民社会セクターの発展経緯や機能に関する研究と密接に関連させて、ダイバーシティ及びソーシャル・エクスクルージョンについて調査・分析し、国際比較研究が可能な定量的指標体系を検討した。各国社会のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの状況と、各国の経済成長、起業、犯罪など、様々な社会経済パフォーマンスとの関係を定量的に分析した。

具体的には、以下の研究成果を挙げることができた。

- ・調査対象国のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの現状分析、および NPO/NGO、民間企業など市民社会アクターとの関係についての既存研究を整理し、文献データベースを作成するとともに、各国の特性について把握した。

- ・調査対象国を対象に、各国のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの現状を示す指標を作成するために必要なデータを収集、整理し、データベースを作成した。

- ・NGO/NPO、民間企業、関係省庁での調査を行い、ダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンに対する考え方、取り組み状況についての情報を収集した。

- ・調査対象国・地域の市民社会の特徴を表す「ダイバーシティ・インデックス (DI)」および「ソーシャル・エクスクルージョン・インデックス (SEI)」（仮称）を開発するため、各国社会のダイバーシティおよびソーシャル・エクスクルージョンの数量的な表現を試みた。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 16 件）

①松島みどり・立福家徳・伊角彩・山内直人、現在の幸福度と将来への希望～幸福度指標の政策的活用～、New ESRI Working Paper、Number 27、(2013)、23pages.

②山内直人、地域再生におけるソーシャル・キャピタルの役割、季刊社会保障研究、査読無、Vol.49、Summer 2013、(2013)、pp.71-80.

③Yoshiho Matsunaga、Leadership and social capital in the creation of social entrepreneurship: An empirical analysis of social entrepreneurs in Japan, EMES-SOCENT Conference Selected Papers、査読無、ECSP-LG13-59、(2013)、18pages.

④Midori Matsushima and Yoshiho Matsunaga、Does Trust Ease the Decline in Happiness after

Traumatic Experiences?, 商経論集, 査読無, 第9巻第3号, (2013), pp.21-37.

⑤石田祐・奥山尚子、東日本大震災後の家計の寄付行動—「義援金」と「活動支援金」を促進する要因の探索—、日本NPO学会ディスカッション・ペーパー、査読無、2013-004-J、(2013)、pp.1-12.

⑥石田祐、地域防災体制の構築におけるソーシャル・キャピタルの役割—民間事業所と地域住民の関係性を中心に、ECO-FORUM、査読無、vol.28, no.4, (2013)、pp.51-67.

⑦田中敬文、100回目を迎えた「バイロイト音楽祭」:音楽祭の構造と財政支援、文化経済学、査読無(依頼論文)、第10巻、(2013)、pp.16-19.

⑧Baba, Hideaki and Ishida, Yu, Empirical Analysis on Preferences of Donors to Financial Information of Civil Society Organizations, ISTR Working Papers Series, 査読有, VIII, (2013), pp. 1-23.

⑨金谷信子、介護系NPOの持続性と多様性:介護保険制度外サービスの実態調査から、広島国際研究、査読有、18巻、(2012)、pp.55-70.

⑩金谷信子、“絆”の含み資産としての地縁ネットワーク、月刊自治研、査読無、54巻、(2012)、pp.27-34.

⑪Ohtake, Fumio, Okuyama, Naoko, Sasaki, Masaru, and Yasui, Kengo, Impacts of the Great Hanshin-Awaji Earthquake on the Labor Market in the Disaster Areas, Japan Labor Review, 査読無, vol.9, no.4, (2012), pp.42-63.

⑫石田祐、高年齢者の社会貢献活動を促進する地域特性に関する実証分析」労働政策研究・研修機構編、『高齢者の社会貢献活動に関する研究—定量的分析と定性的分析から』労働政策研究報告書、査読無、no.142、(2012)、pp.125-149.

⑬永富聡・石田祐・小藪明生・濱野強・藤澤由和、社会参加が安全の主観的側面に与える影響—個票データを用いた定量分析、地域活性研究、査読有、vol.2、(2012)、pp.153-158.

⑭田中弥生・馬場英朗・石田祐、新しい公共と認定NPO法人制度—パブリック・サポート・テストは寄付文化を促進するか、非営利法人研究学会誌、査読有、vol.13、(2011)、pp.21-30.

⑮永富聡・石田祐・小藪明生・稲葉陽二、地縁的な活動の参加促進要因—個票データを用いた定量分析、ノンプロフィット・レビュー、

査読有、vol.11, no.1、(2011)、pp.11-20.

⑯山内直人、震災復興と寄付・ボランティアの役割、日本労働研究雑誌、査読無、7月号 (No.612)、(2011)、pp.1.

[学会発表] (計37件)

①Yamauchi Naoto (Commentator), Welfare Mix, Hybridity and Government-Nonprofit Relationships in Post-Modern Welfare States, Voluntas Conference, 2014.3.21-22, Copenhagen, Denmark.

②松永佳甫、非営利セクターの規模拡大要因分析-再び、日本NPO学会第16回年次大会、2014.3.16、関西大学.

③山内直人 (モデレーター)、グローバル市民社会の比較分析:世界の市民社会はどこに向かっているか、日本NPO学会第16回年次大会、2014.3.15、関西大学.

④徐軼白・奥山尚子、マッチングギフトに関する実証分析—日本のデータを用いて—、日本NPO学会第16回年次大会、2014.3.15、関西大学.

⑤田中敬文、限界に達した家計の高等教育費負担、日本私立大学協会第58回公開研究会、2013.11.27(招待講演)、お茶ノ水ガーデンパレス.

⑥Naoko Okuyama, Yu Ishida, Charitable aid and assistance in a time of disaster: Do donor's perception and experience matter? 42nd Annual Meeting for the Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action, 2013.11.22, Hartford, Connecticut, United States.

⑦Aya Isumi and Naoto Yamauchi, How do Family Relationships Affect Subjective and Psychological Well-being among Japanese Youth?, National Council on Family Relations Annual Conference, 2013.11.6-9, San Antonio, Texas, USA.

⑧Takafumi TANAKA, Social Enterprise Network in Fukushima after 311 disasters in Japan, the Conference of International Society for the Third Sector Research (ISTR), 2013.10.25, Seoul, South Korea.

⑨Baba, Hideaki; Ishida, Yu; Nakajima, Takako and Yamauchi, Naoto, An Empirical Study on the Financial Structure and Disclosure of the NPO Corporations in Japan, Proceedings of 8th ISTR Asia Pacific Regional Conference, 2013.10.25, the Kim Koo Museum and Library, Seoul, Korea.

⑩ KANAYA Nobuko, The Role and Market Share of Nonprofit Organizations in the Quasi-market: An Analysis of the Long-term Care Services Market in Japan, The 4th CIRIEC International Research Conference on Social Economy, 2013.10.25, University of Antwerp, Belgium.

⑪ Naoko Okuyama, Disaster Relief Volunteer Activities: Exploring the case of 3.11 Earthquake, 8th Asia-Pacific Regional Conference for the International Society for Third-Sector Research, 2013.10.24, Seoul, Korea.

⑫ Yamauchi, Naoto; Okada, Aya; Okuyama, Naoko and Ishida, Yu, Private and charitable aid provision towards community resilience: Exploring the role of civil society in disaster management, Proceedings of 8th ISTR Asia Pacific Regional Conference, 2013.10.24, the Kim Koo Museum and Library, Seoul, Korea.

⑬ 山内直人、共感と思いやりの経済学：向社会性を考える、内閣府講演会・新入門シリーズ、2013.10.7、内閣府。

⑭ 藤澤由和・石田祐・今井良広・佐藤大輔、復興とソーシャル・キャピタル—持続可能な地域創造、日本計画行政学会第36回全国大会、2013.9.7、宮城大学。

⑮ 山内直人（招待講演）、岐路に立つ日本の市民社会：寄付と評価を中心に、内閣府公益認定等委員会ヒアリング、2013.7.26、内閣府公益認定等委員会会議室。

⑯ 松永佳甫, Leadership and social capital in the creation of social entrepreneurship: An empirical analysis of social entrepreneurs in Japan, 4th EMES International Research Conference on Social Enterprise, 2013.7.4, Liege 大学, Belgium.

⑰ 山内直人、加齢が主観的幸福感に与える影響：最近の全国調査による実証分析、シンポジウム：Positive Psychology の基礎医学、2013.6.30、パシフィコ横浜会議センター。

⑱ Takafumi TANAKA, The State of the Emerging Japanese Social Enterprises: Their Contribution to Employment Promotion and Poverty Reduction, International Conference on Social Enterprise and Social Impact –Employment Promotion and Poverty Alleviation, 2013.5.24(Invited Lecture), Taipei, Taiwan.

⑲ 稲葉陽二・石田裕・相田潤・川脇康生、社会関係資本と災害、日本 NPO 学会第 15 回年次大会、2013.3.16、東洋大学。

⑳ 山内直人、ソーシャル・キャピタルと市民

社会、社会関係資本研究の 20 年を振り返る、2013.3.15、日本大学法学部 10 号館。

㉑ Takafumi Tanaka, Nozomu Osawa, How should we teach the NPO/NGO-related lecture at Public Policy School for building civil society?, ARNOVA's Catalogue of Current Research, 2012.11.15-17, Indianapolis, USA.

㉒ Naoto Yamauchi, The Roles of Social Capital, Philanthropy and Nonprofits in New Public Commons, Invited lecture, Closed Session: Social Security during Times of Low Growth, 1st Meeting of the Austria-Japan Committee for Issues of the Future, 2012.6.11, Schloss Mirabell, Salzburg, Austria.

㉓ 石田祐、安全・安心な生活基盤とソーシャル・キャピタル、島根大学疾病予知予防研究拠点（招待講演）、2012.3.19、島根大学医学部。

㉔ Naoto Yamauchi, The Role of Civil Society in the Age of Crisis: Lessons from 3.11 Tohoku Earthquake, Korean Association of Nonprofit Organization Research(KANPOR) 2011 Autumn Conference, 2011.12.2, Seoul, Korea.

㉕ Naoto Yamauchi, Capability and community development, 7th ISTR Asia Pacific Regional Conference, 2011.11.26, Sanur Paradise Hotel, Bali, Indonesia.

㉖ Ishida, Yu and Okuyama, Naoko, Giving Behaviors toward Community Based Organizations in Japan, 7th Asia Pacific Conference of ISTR, 2011.11.25, Sanur Paradise Hotel, Bali (Indonesia)

㉗ Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, International comparative study on individual philanthropy: An empirical analysis on social preferences and pro-social behavior, 7th ISTR Asia Pacific Regional Conference, 2012.11.25, Sanur Paradise Hotel, Bali, Indonesia.

㉘ Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, Individual philanthropy and social preferences: Empirical analysis using the new Japanese micro data, 40th ARNOVA Annual Conference, 2011.11.18, Tronto, Canada.

㉙ Ishida, Yu and Okuyama, Naoko, Charitable Giving Toward Local Welfare Services in Japan: Traditional CBOs and Emerging incorporated NPOs, 40th Annual Conference of ARNOVA, 2011.11.17, Westin Harbour Hotel, Toronto, Canada.

㉚ 澤井安勇・石田祐・濱野強・奥山尚子・丸

田照輝、ソーシャル・キャピタルと政策イノベーション、日本計画行政学会第34回全国大会、2011.11.9、中央大学。

⑭田中敬文、NPO等と行政との協働、生涯学習フェスティバル2011（招待講演）、2011.11.6、小金井市商工会館。

⑮石田祐、NPOを支える社会基盤—NPO法人財務データおよび寄付行動調査データをもとに、関西公共政策研究会第99回例会、2011.11.5、京都大学。

⑯田中敬文、教育財政・教育費負担の動向と負担のあり方について、日本教育行政学会第46回大会・課題研究Ⅱ「縮小社会における教育財政と再分配」、2011.10.9、九州大学。

⑰Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, Social capital and generosity in the community, The International Conference on Social Stratification and Health 2011(Invited presentation), 2011.8.7, University of Tokyo Hongo Campus.

⑱Kanao Yoshikawa and Naoto Yamauchi, Social Capital, Poverty Reduction and Sustainable Development: Regional Comparisons from Cross-Country Data, 7th ISTR Latin American and Calibian Regional Meeting, 2011.7.13, Buenos Aires, Argentina.

⑳Wendy Earles, Hagai Kats, Alberto, and Beatriz, Enjolras, Brenda Gainer, and Naoto Yamauchi, The recent development of the third-sector research in Japan, in Third sector scholarship around the world: Present and future challenges, 7th ISTR Latin American and Calibian Regional Meeting, 2011.7.12, Buenos Aires, Argentina.

㉑Naoto Yamauchi, Recent Developments in Philanthropy and Social Enterprise in Comparative Perspective, ForTeS and ISTR Seminar ( Invited Lecuture ), 2011.4.14, Siena, Italy.

〔図書〕（計 13 件）

①山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学NPO研究情報センター、世界の市民社会2014、(2014)、iv+ 265 pages.

②岩崎晋也・岩間伸之・原田正樹編、有斐閣、社会福祉研究のフロンティア、2014年刊行予定。

③山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学NPO研究情報センター、NPO白書2013、(2013)、191pages.

④日本ファンドレイジング協会編、日本ファ

ンドレイジング協会、寄付白書2013、(2013)、270pages.

⑤稲葉陽二・藤原佳典、ミネルヴァ書房、ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立 重層的予防策とソーシャル・ビジネスへの展望、(2013)、289pages.

⑥KANAYA Nobuko, Soeisha, Transformation of Civil Society and Human Recovery: A Perspective Based on Experiences of Two Great Earthquakes and the Hiroshima Attack, in HCU 3/11 forum ed. Japan's 3/11 Disaster as Seen from HiroshimaA Multidisciplinary Approach, (2012), pp. 27-52.

⑦山内直人・田中敬文他 19 名、大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター、NPONGO 事典 The Encyclopedia of Contemporary Civil Society、(2012)、309pages.

⑧山内直人・奥山尚子、経団連出版、『寄付白書 2012』（第 2・3 章執筆）、(2012)、227pages.

⑨西出優子・佐藤裕介編、東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール、東北大学経済学部西出優子研究室、NPOの理論と実践—せんだいのフィールドより— 第4号、(2012)、pp.1-4.

⑩山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学NPO研究情報センター、NPO・NGO事典：市民社会の最新情報とキーワード、(2012)、xii+310 pages.

⑪西出優子監修、小林主茂編 東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール、東北大学経済学部西出優子研究室、震災復興ボランティア入門講座報告書—今日を創る、明日を変える、ボランティアのチカラ、(2011)、pp.1-2.

⑫山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学NPO研究情報センター、ソーシャル・キャピタルの実証分析、(2011)、211pages.

⑬Naoto Yamauchi, Naoko Okuyama, Midori Matsushima, Center for Nonprofit Research and Information, Osaka University, Japanese Civil Society at a Crossroad: CIVICUS Civil Society Index Report for Japan, (2011), 54pages.

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

山内 直人 (YAMAUCHI NAOTO)  
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・  
教授  
研究者番号：90243146

### (2)研究分担者

松永 佳甫 (MATSUNAGA YOSHIHO)  
大阪商業大学・総合経営学部・教授  
研究者番号：60325561

西出 優子 (NISHIDE YUKO)  
東北大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：60451506

金谷 信子 (KANAYA NOBUKO)  
広島市立大学・国際学部・准教授  
研究者番号：20509062

石田 祐 (YU ISHIDA)  
明石工業高等専門学校・一般科目・講師  
研究者番号：20455554

田中 敬文 (TANAKA TAKAFUMI)  
東京学芸大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50236600

奥山 尚子 (OKUYAMA NAOKO)  
神戸大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：80617556